

小さな苗が豊かな心を育む

森林ボランティア

いのちの森づくり友の会(神奈川県)

林政ジャーナリスト 吉藤 敬

山に木を植えたり森林の手入れをするだけが、森林ボランティア活動ではない。山や町や村そして工場などに緑の木を植えて、生活環境を整えることも大事な仕事だ。木を植えて育てることは、人びとの情操を豊かにし、明るく健全な社会の構築に大きく貢献することになる。とても大事な仕事と言える。緑化活動は、誰にでもできる小さな仕事であり、社会貢献という大きな成果につながる。

「いのちの森づくり友の会」を訪ねて、すばらしい緑の環境に触れたり、ドングリから苗を育

緑づくりは人づくり

「いのちの森づくり友の会」は、社会福祉法人進和学園(出縄明理事長)が2006年にスタートさせたプロジェクト。進和学園は1958年に、障害を持つ人たちが「生活のよろこび」役に立つよう「働くよろこび」を感じて、充実した

生活を送れるようにとの願いを込めて設立され、現在、重症の人から、働ける人まで400人余が、施設で生活したり、学園に通って一所懸命に働いている。仕事はドングリや樹木の種子から苗木を育て、国土緑化や環境整備の基礎を形成する活動、本田技研(株)の簡単な部品の組立て、農業(野菜・草花栽培と販売)、パンやクッキーなどの製造販売、クラフトの制作と販売など、施設の運営と社会貢献に役立つ仕事を、地域の企業や行政、篤志家、ボランティアなど多くの人がとに支えられて力強く活動を展開している。

から苗を育てている人々も、人なつっこく礼儀正しい。樹木を育て緑豊かな環境を作ることが人格の形成に役立っていることは、歴史が証明しているところだが、ドングリや種子から苗木を育てている人、その苗木が工場や養護施設の周囲に植えられ、みごとな緑の外壁となったすばらしい環境に包まれて働く人々、懸命に生きようとしている重症の人たちを見ると、それが一層強く感じられた。

小さな種子で大きな貢献

学園の人たちの収集のほか、企業や全国各地の篤志家等から送られてきた、ドングリや木の種子から苗木を大事に育て、3年ほどして30cmほどの高さになると出荷する。



しんわルネサンス植樹祭



どんぐり拾い



ポット苗づくり



どんぐりハウスの内部

各地の植樹祭や学校・道路・公園などの公共施設及び山林などに植えて、国土の緑化・環境整備・教育などの大事な仕事の基礎を担っている。また、苗木は東京都世田谷区の植樹祭をはじめ、豊島区などの自治体でも購入して緑化活動に資しているほか、ボランティアなども購入している。最近では、東日本大震

災と大津波で甚大な被害を受けた東北で、宮脇昭横浜国大名誉教授の指導の下での「森の長城づくり」に苗木を供給している。障害者と支援者が協働して育てた苗木は、これまでに14万本にのぼっている。今後は1年に5000本供給できるようにしたいと、小さな苗に施肥をしたり、全部の苗木に平均して太陽の光が

当てるように、苗木を移動させるなど、細かいところに気を遣って懸命に育てている。育てている苗の種類は豊富で、高木ではアラカシ、シラカシ、タブノキ、ヤマザクラ、ヤマモモ、クスギ、コナラなど。中木ではイロハモミジ、ヤブツバキ、ヒメユズリハ、サンゴジュなど。低木ではアオキ、シャリシバ、マンリョウ、ナンテン、ガマズミなど野鳥が好む実のなる木を含めて多種多様だ。苗木は、地元の人々の好意でビニールハウスを2棟借りて育成している。それらの苗木は1本400円ほどで販売して、障害者施設の運営費等に充てられている。緑化木の苗木のほかに野菜やシタケの栽培も行っており、

今後は神奈川県農業技術センターが開発した新種のトマトを栽培して、ケチャップやジュースなどに加工して販売するため、倉庫を工場に改造している。森林はまさに「いのちの森」人間生活にかけがえのない宝物。その命の森を守るために、身体障害者を取りこめて、心を込めて苗木を育てている姿に大きな感銘を受けた。

障害を持つ人たちの生きがいと自立のために、小さなドングリが大きな夢を叶える土台となっている。

進和学園の標語から「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」「今日の感謝・明日への勇氣」



植樹8年の樹木に囲まれて